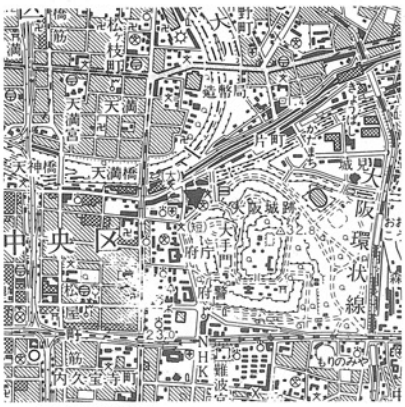
大阪・大坂城跡

1　所在地　大阪市中央区大手前一丁目
2　調査期間　一九九六年（平8）九月～一〇月
3　発掘機関　㈶大阪市文化財協会
4　調査担当者　黒田慶一
5　遺跡の種類　近世城郭
6　遺跡の年代　豊臣時代～明治時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は豊臣氏大坂城跡の北外郭部に位置する。東西道路を挟んだ南側の大阪府立ドーンセンター敷地は、大阪府教育委員会によって調査され、三ノ丸の石垣やその前面の柵列などが検出された。今回の調査地は、昭和初期まで敷地の半ば以上が寝屋川河川敷であった。豊臣時代においても同様で、大坂城の最外郭にあたっていたと推測されるが、石垣は見られず、長さ一・〇m以上の杭を約〇・五m間隔で打ち込み、横木をかませた土留め遺構が東西二一m以上の範囲で確認された。



（大阪東北部）

豊臣時代の遺構には二時期あり、古い方の遺構として、土留めと盛土の地業を行なった後、礎石建物と打刀（うちがたな）の鞘百数十本を用いて作った垣根状の遺構がある。

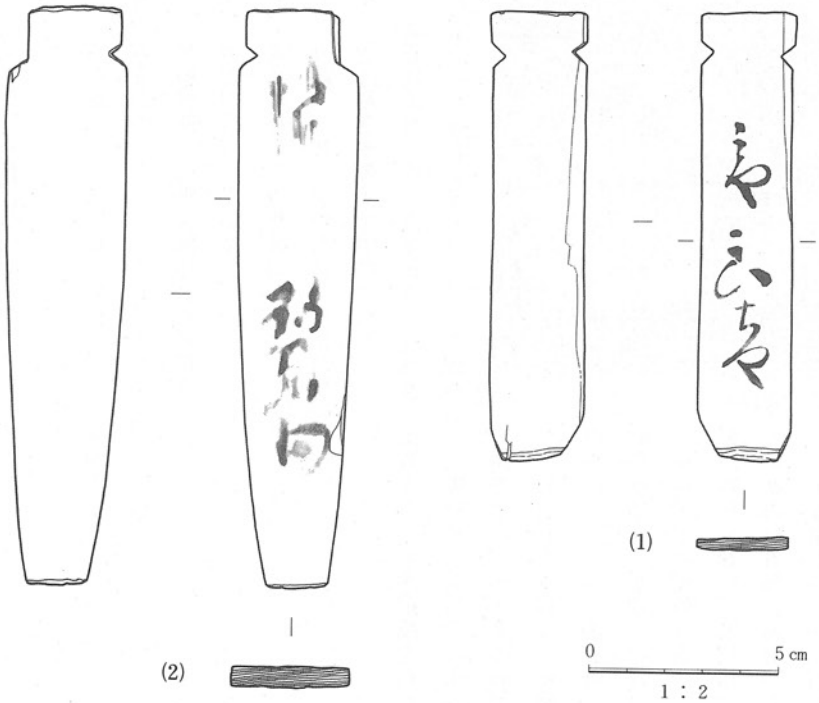
木簡は、調査地東端のゴミ穴より二点出土した。ゴミ穴は鞘が集中的に検出された地点から二・五m北側、すなわち寝屋川側の、土留め遺構のラインよりも川側に位置し、有機物を主体とする土で埋められている。近代の掘削により北半は消滅し、遺構上面まで削平されていたので詳細は不明だが、深さ〇・七mで、平面形は直径約三・〇mの半円形を呈する。ただ河原への傾斜地に位置することから、傾斜面にできた凹地にゴミが集積したものである可能性は残る。ゴミ穴からは唐津焼が出土したことから、木簡も含めて豊臣時代後期のものと考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈□□や　こひちや」　118×25×3　032

(2)　・「〈□□□」
　　・「〈□□□」　152×32×6　032

（黒田慶一）



大阪・住吉大社境内遺跡で
木簡状木製品出土

住吉大社境内遺跡は、大阪市住吉区にある古墳時代～近世の集落跡・寺社跡で、(財)大阪市文化財協会が、一九九六年九月から一〇月にかけて民家建替えに伴う調査を実施した。

その結果、井戸二基、溝一条、多数のピットを検出した。井戸一基からは、一二世紀代の瓦器椀・土師器皿・ガラス製小蓋が出土。もう一基は、直径約一・五m、深さ約三・五mの素掘りの井戸。古式の瓦器椀などが出土し、一一世紀末に位置づけられる。井戸底から下駄・建築部材・木簡状木製品が出土した。

木簡状木製品のうち一点は、長さ二一五㎜、幅三三㎜、厚さ三㎜。もう一点が長さ二一五㎜、幅三六㎜、厚さ三㎜。ともに一端は圭頭状で、他端は円弧状に切り込み、片面にはそれぞれ裏面まで達しない浅い切り込みが三対ある。二点は同様な形状であること、切り込みのない面であわせると切り込みの位置が一致することから、二枚一組として紐で縛って使用したと考えられる。封緘木簡と同種の機能を果たしたものと推測されよう。

（平田洋司）